

(3) 伝統と文化

教材開発のポイント



着想

(1) 素材の収集・選定



集めてみよう

郷土への誇りが感じられる素材

- ・ 人類の文化的活動によって生み出された有形無形のもの
- ・ 祭りや地域行事など、地域の方の参加・協力を得やすいもの

○ 素材の収集に当たって

伝統と文化には、人と人とのつながりが凝縮されている。素材として地域の祭りが着目されやすいが、有形無形なものについて幅広く収集に当たりたい。また、地域のかくれた伝統と文化を発見していこうという思いをもち収集に望みたい。

○ 素材の選定に当たって

伝統と文化は、地域に根ざしたものが多く、地域の人々の思いや願いが脈々と受け継がれてきたものであることから、郷土や国への誇り、愛情が感じられるものや地域の方の参加・協力を得やすいものといった視点は必要である。

(2) 情報の収集



探してみよう

伝統と文化の継承に着目

- ・ 伝統と文化の体験
- ・ 郷土資料の収集や継承者へのインタビュー

伝統と文化の情報収集においては、特に資料作成者自身が、取り上げる伝統と文化を実際に体験してみることが望まれる。

情報の収集に当たっては、郷土資料の収集や継承者へのインタビューは欠かせない。その際、伝統と文化が継承されてきた経緯とともに、多くの人々の営みや継承上の課題など現在の状況にも着目することが必要である。また、先人への感謝や文化への誇りなど伝統と文化を継承している方の思いを知ることも大切にし、多くのエピソードを収集したい。さらに、社会科における学習内容や総合的な学習における伝統と文化にかかわる体験等を踏まえる必要がある。なお、政治的・宗教的中立性を保つことに留意することも大切である。

情報の収集に当たっては、郷土資料の収集や継承者へのインタビューは欠かせない。その際、伝統と文化が継承されてきた経緯とともに、多くの人々の営みや継承上の課題など現在の状況にも着目することが必要である。

(3) 読み物資料の作成



書いてみよう

伝統と文化に対する継承者の思いに留意

- ・ 郷土への愛着や伝統と文化の継承という視点
- ・ 事実としての重みや迫力の記述

① 主題やねらいを決定する

主題やねらいを決定するに当たっては、昨今の現状として地域文化が育ちにくい状況にあることから、地方色をより大切にすることが求められる。伝統と文化は、社会や集団において、人々が価値あるものとして現に行い、さらに未来に伝えていこうと考えているものであることから、郷土への愛着や伝統と文化の継承・発展という視点は欠かすことができない。ただし、郷土愛に限ったことではなく、伝統と文化を大切にすることをはぐくむといった視点で幅広く主題やねらいを考えていきたい。

構成・推敲

**② 対象となる学年の発達の段階や特性等を把握する**

把握内容としては、児童生徒における伝統と文化についての意識、行事における体験の有無などが考えられる。また、普段の学校生活では味わう機会はあまりないことから、外部講師を招聘し伝統芸能等の実演を観察させたり体験させたりして、児童生徒の身近な感覚を把握することも一つの方法である。

③ 登場人物や状況を設定する

登場人物や状況の設定は、伝統と文化の背景の深さから内容が難しくなりやすいことから、児童生徒が理解し共感しやすい平易なものであることが望まれる。事物ではなく人物を取り扱う場合は、伝統と文化に対する誇りと継承に焦点を当て、伝統と文化をクローズアップしたい。

④ 中心場面（山場）を決め、大まかな起承転結を設定する

伝統と文化の有形無形の美しさや郷土への誇り、愛情などが児童生徒に伝わるエピソードの挿入が求められる。主人公が、地域の伝統と文化にかかわる人物に出会い、今までもっていた地域の伝統と文化について、新しい視点を得たり、思いが変化したりする場面設定が必要である。

⑤ 場面分けをもとに文章化する

伝統と文化は実話、歴史などの事実を支えられており、事実としての重みや迫力を効果的に生かして表現することが大切である。例えば、「それを九百年も昔から続けてきた。」（開発例1）「百回試して、千回改める。仙三郎さんの言葉だよ。」（開発例2）などの記述の工夫が考えられる。また、「赤いレンガの煙突から立ち上る煙を見ながら、軽い足取りで家路へとついた」という文章における「立ち上る煙」を通して、事実を示すと同時に伝統と文化が継承されている証であることを表現する方法も考えられる。

⑥ 不要な場面や文言を削除する

地域の伝統と文化にかかわる人物の思いを、例えば、「〇〇町のために・・・」といった表現で直接表してしまいがちである。特に中心場面では、心情描写を削除し、児童生徒から多様な考えが引き出せるようにすることが必要である。

(4) 授業の実施**実践してみよう****効果的な展開**

- ・ 実物（伝統的工芸品等）の活用
- ・ 動作化、役割演技等、表現活動の工夫
- ・ 地域人材の活用

伝統と文化には本物のもつ力があることから、伝統的工芸品、祭りや民俗芸能の映像、歴史的建造物の写真など実物を活用し、リアリティーを高める工夫を考えたい。また、様々な立場について考える役割演技等を取り入れることも効果的である。さらに、地域人材を活用し、事前・事後の指導を含め、話を聞いたり体験したりするなど共に

学ぶ機会を設けたい。なお、地域人材を活用する場合には、ねらいや時間配分等の綿密な打ち合わせが必要なのは言うまでもない。

(5) 体制・環境づくり**充実させよう****日常生活における環境整備**

- ・ 家庭や地域社会との連携

教職員が伝統と文化に親しむ日常生活を心がけるなど、児童生徒が文化的薫りの高い環境の中で日常生活を過ごせるようにしたい。その際、教師や保護者をはじめ、地域の人々や先達などが児童生徒に託す願いを表した掲示や作品の展示の工夫などが望まれる。